

小郡支局 0942-23-8620 FAX23-8621  
〒838-0143 小郡市小坂井244-4-D101

写真の申し込みは  
西日本新聞フォトサービス 092(711)5528

折り込み広告は  
西日本新聞総合オリコミ久留米本社 0942(45)0750

広告の申し込みは  
西日本新聞広告社 0942(38)8651  
久留米営業部

購読申し込み  
0120-44-0120

配達の間い合わせ、  
「はじめてのペースター」申し込みは  
エリアグループ筑後 0942(44)9555

# 筑後

## 豪雨被災者に「相撲で元気を」 琴奨菊関が古里激励 ボランティアもねぎらう

柳川市出身の大関琴奨菊関が29日、九州北部豪雨で大きな被害を受けた柳川市や八女、みやま両市を訪れ、復旧作業に取り組む被災者やボランティアを励ました。泥が堆積し、今も豪雨の爪痕が残る古里の様子に驚いた様子で、「相撲で元気を与えたい」と活躍を誓っていた。



柳川市三橋町中山の災害ボランティアセンターを訪れ、一人一人と握手を交わしながら感謝の言葉をかける琴奨菊関

町中では、関舎が壊滅的な被害を受けた中山保育園を訪問。復旧作業中のため、他の園に通つたのを羨ましくされている園児たちを抱き上げた。中山公民館に設けられた災害ボランティアセンターでは、福岡市などから参加したボランティア一人一人と握手を交わし、「ありがとうございます」「お疲れさまです」とねぎらいの言葉をかけた。琴奨菊関は「柳川市の

流した。柳川市内では15〜20日に約1600人がボランティアで作業を行い、復旧の大きな力となった。(細野喜光)

## 郷土の偉人語り継ごう

日本統治下の朝鮮半島主の農業を調査した八女市出身の農学者高橋昇(1899〜1946)について学ぶ勉強会が26日八女市で開かれた。長男の甲四郎さん(87)久留米市東町に「記録は詳細で正確。朝鮮農業の近代化実現を目指した姿勢は韓国でも深い尊敬を寄せられている」と話した。

高橋昇は東京帝国大学農学部を卒業後、1910年から朝鮮総督府農事試験場に勤務。34年から約10年間は朝鮮半島を歩いて伝統的農法の調査を行つた。独立後の韓国の農業発展に大きく貢献した。回国水原市の農業科学館には顕彰コーナーも設置されている。



朝鮮半島における高橋昇の取り組みを紹介する厚子の甲四郎さん(左)

## 朝鮮半島の調査 八女市で高橋昇の学習会

学習会は、韓国での知名度の方が高い地元の偉人の功績を次世代に語り継ごうと、市民有志が初めて企画し、農業関係者など14人が出席した。甲四郎さんは「当時の政府は日本の進んだ農業を現地に押しつけるのが主流だったが、高橋昇は『農民に学ぶ』という立場。2年間で3種類の穀物を栽培する現地の農法を尊重し、その合理性を科学的に解明しようとした」と話した。

院長の講演会を開く。「海外支援に関心のある人は参加を」と呼びかけている。参加自由。講演は英語で行われる。

率が高くて高い。聖マリア病院のコンサップ院長がラオスの保健医療の現状を語り、支援を訴える。問い合わせは、聖マリア病院国際事業部・0942(35)3000。



- 久留米市 久留米市 久留米市
- 右田 ミス枝さん(みぎた・みすえ)28日死去、61歳。自宅は田主丸町野292。葬儀は30日午後1時から田主丸町野城のJAにしアルカス田主丸で、喪主は長男藤原(よしひろ)さん。
- 八女市 八女市
- 松尾 スサキさん(まつお・すさき)28日死去、81歳。自宅は立花町久谷602の2。葬儀は30日午後1時から市内のJAにおか八女葬祭センターまごころ会館山内。喪主は次男和弘(かずひろ)さん。
- 大川市 大川市
- 松崎 泰助さん(まつざき・たいすけ)29日死去、80歳。自宅は立花町北山8003の1。葬儀は30日午後1時から本町の公益社レモニーホール香林で、喪主は妻(ひとみ)さん。
- 原 貴子さん(はら・たかこ)29日死去、51歳。自宅は酒見。葬儀は31日午後1時から郷原の天光社郷原式場で、喪主は長男寛(よしひろ)さん。
- 横山 昇輔さん(よこやま・しょうすけ)

## 最高賞に池寄さん

西写協・写団八媛7月定例会



池寄正博さんの作品「並木通り」

# 八女、久商健闘16強

也選手(2年)が5、6 堤裕太郎主将(3年)は回戦で2人抜きしてチームの躍進に貢献。7回戦レベルの選手たちと剣を交えられて、いい経験に川に惜敗した。大将の「なつた」と話した。

八女支所(川島幹支所)の池寄正博さん(88)の作